

県会議員 奥村のり子 の
読者ニュース

2017年1月29日 第250号
——奥村のり子生活相談所——
〒640-8212 和歌山市杉ノ馬場1-11
☎&FAX 073-427-7121
Eメール w:jcpken@naxnet.or.jp



トランプ政権にしがみつき
世界から取り残される国に？

1月20日、通常国会が召集され、冒頭は例によってアベ首相の美辞麗句で飾りまくって国民を欺く施政方針演説です。しんぶん赤旗によれば「国内政治を差し置いて、冒頭から日米同盟を全面に押し出す異例の演説」だと。題して「世界の真ん中で輝く国づくり」では、「日米同盟こそがわが国の外交・安全保障政策の軸だ。これは不変の原則だ。できる限り早期に訪米し、トランプ新大統領と同盟の絆をさらに強化する考えだ」と。また「沖縄の基地負担軽減（実は強化）や12月の「日ロ首脳会談では平和条約の締結に向けて重要な1歩」（実は領土問題で屈した失敗）とウソつき言葉が花盛りでした。

同じ20日は米国のトランプ新大統領の就任式。就任演説では「全分野で米国第一」を宣言。超大国のリーダーが「米国第一」とは、国連加盟国の主権平等の憲章に背くもの。他国への侵略を反省せず、増強路線で米軍再構築、日本にも軍事的、財政的負担をさらに求めてくる可能性が大きい。大統領では最悪の不人気で就任式の翌日は全米300カ所ので300万人の女性参加で抗議集会があり、世界でも約60カ国で女性蔑視に抗議する行動が伝えられています。「日米同盟絶対」という日本政府の思考が続く限り、世界に取り残される国になるのではないのでしょうか？（編集室）

核兵器のない世界実現へ一歩なのに
これが被爆国首相の答弁か！

今年3月に国連で核兵器禁止条約に向けた交渉会議が行われます。歴史的なことですが、核兵器は世界に1万数千発あるといわれています。国連で「核兵器のない世界」への大きな一歩が踏み出されるような情勢になったのは核兵器廃絶に向けて被爆者をはじめ、日本の反核平和運動の人々が働きかけて来た成果だと思えます。

禁止条約が出来れば核兵器



「違法化」されて、禁止条約に反対する核兵器保有国や核の傘にある国を政治的、道義的に拘束することになります。八十歳を超えた被爆者が「生きていくうちに核兵器のない世界を実現させたい」と、兵器禁止条約をすべての国に求める署名「ヒバクシャ国際署名」に取り組まれています。署名は世論をつくる大きな力になります。

二十四日、衆議院本会議で志位和夫委員長が代表質問を行い、核兵器禁止条約に反対票を投じた安倍政権を質しました。首相は「この決議は核兵器国と非核兵器国間の亀裂を

稀に見る雪



二十四日は和歌山ではほんとに珍しい「大雪」でしたね、びっくりしました。（自宅）

奥村のり子

国際婦人デーで鑑賞

3月8日は国際婦人デーです。国際婦人デーとは、1904年3月8日にアメリカ合衆国のニューヨークで女性労働者が婦人参政権を要求し、デモを起こしたことを受け、1910年にコペンハーゲンで行われた国際社会主義者会議で、政治上、経済上、社会上の男女平等を達成するため、記念日とするよう提唱したことが始まりです。

国連は1975年（国際婦人年）の3月8日以来、この日を「国際婦人デー」と定め、現在は国連事務総長が女性の十全かつ平等な社会参加の環境を整備するよう、加盟国に対し呼びかける日となっています。

和歌山市実行委員会では、今年「ドキュメンタリー映画『私はマララ』」を上映します。マララさんは、2014年17歳でノーベル平和賞を受賞されました。タリバン制圧下の母国で教育の必



インターネットより

要性訴え、15歳で銃撃され瀕死の重傷を負いながらも奇跡的に一命をとりとめ、過酷なりハビリに耐え、笑顔を取り戻し、使命を果たすべく再度立ち上がります。なぜ、彼女は命の危険にさらされながらも活動を続けるのか？彼女を支える家族との「特別な絆」とは？本気で世界を変えようとしている少女の素顔に迫る、珠玉の感動ドラマです。男性も参加大歓迎です。皆さん是非ご参加下さい。

3月11日（土）
受付 13:00
開始 13:30
（16:00終了予定）
場所 和歌山市教育会館3F
参加費 500円
主催 3・8国際女性デー
和歌山実行委員会

◆申し込み・問い合わせ先
和歌山市母親連絡会
431-7317

紙芝居文化の会 運営委員
池田光子 461-5062

Relay talk

のり子の週刊日誌II（主なもの）

- 1月27日 市駅前吉宗像前宣伝、街頭宣伝
- 28日 医生協河北支部新年会、地域訪問
- 29日 岩出市議選、会議
- 30日 河西事務所生活相談、地域訪問
- 31日 常任委員会
- 2月 1日 地域訪問
- 2日 市駅前無料生活相談、岐阜・静岡薬学部視察

党市議会議員
南畑さち代



「私はマララ」上映にぜひご参加を